

社 報



ハツリは無くせないか？

資本金を増加しました

フォービルは有限会社として設立してから、様々な方々に支えられて、おかげ様で5月8日をもちまして、設立後2年を経過することができました。

ありがとうございます。

また、今後の資本の充実を考えまして、資本金を増加いたしました。4月末日現在で当社の資本金は900万円となっております。今年夏にはさらに増資して、資本金を1,000万円以上にして、株式会社に改組していく予定です。

さらに、来年3月までには資本金を2,000万円に増加し、自己資本4,000万円を達成して、特定建設業の許可を取得したいと考えています。

特定建設業の許可取得により、3,000万円以上の下請発注が可能になり、建設業法上の問題をクリアすることができます。

また、資本の社内留保を高めることにより、支払能力の高い安心取引ができる会社となって、さらに発展伸長を計画していきたいと思えます。

型枠工事にはハツリがつきものです。ハツリにもいろいろな原因があり、ハツリ=型枠大工の精度不良ではありません。しかし、一般的に現場でハツリ工事があると、型枠精度不良であると思われがちなこと事実です。

我々の立場とすれば、型枠工事にハツリがつきものであってはなりません。精度不良によるハツリの発生は、我々のミスであり、「恥」としなければなりません。

型枠工事に要求される精度は年々厳しくなり、ハツリ工事の発生もまた多くなりつつあります。

また、ゼネコンの監督さんの技術力も低下しており、コンクリートが納まらなければ、ハツって大工から相殺すれば良いと考える人は、今後ますます多くなっていくと思われれます。

実際、当社でも事実がどうかを確認できない、相殺伝票が現場から回ってきます。ハツリがあったとしても、我々が負担しなければならぬハツリは、型枠大工の精度不良であって、それ以外のハツリについては我々が費用を負担するものではないはずで

しかし、現実にはそれがあつたのは、現場で型枠大工の精度不良が発生しているからでもあります。

型枠大工の精度不良は「大工の恥」と心得るべきです。

これは必ず無くさねばなりません。

では、どうしてハツリを無くすのか、それには、まず現場で職長を含めて、全員がハツリをゼロにしたいと現場に申し入れることです。

そして、型枠の許容精度について、話あってその範囲を決定してもらい、許容範囲内であれば、例えハツルことがあつても、大工の責任ではないと明言できる状況を作らねばなりません。

また、型枠建て込み前には、鉄筋やコン天、仮設物の状態を確認して、型枠精度に影響を与えそうな場合には直してもらわないと作業ができないことを申し入れなければなりません。

また、加工後の変更なども、型枠精度に影響を与えますので、変更を受ける時点で、型枠精度不良の責任を、当社からはずしてもらわねばなりません。

そうした結果においてでも、型枠大工による精度不良が発生した場合は、誰がその部分を建て込んだのかを含めて、原因を調べて再発防止を図らねばなりません。同じ過ちを繰り返して、いらぬ出費を繰り返すような「愚」を重ねてはいけません。

自分の仕事に誇りを持つことは、出来あがつた結果に責任を持つということです。自分の仕事には間違いがないと、胸を張って言えてこそ、プロなのです。

それでも、人間間違いはあるものです。しかし、間違いを先取りするようではプロとは言えません。

<http://www.forbuild.co.jp> 当社のウェブサイト(ホームページ)からも社報が読めます！

自損事故発生！

4月8日、桜島ホテルの現場にて、野瀬工事部・野瀬義宏さん運転の当社社有車・ニッサンセレナワゴンが、後方の確認が不十分のうちにバックして、運転席から死角になっていた手摺に後部ドアがめり込み脱出しようと前進したら、後部ドアが全損する、という事故が発生しました。

事故を起したい者は誰もいません。

しかし、一度事故を起こすと運転者はその結果に責任を負わねばなりません。今回は自損事故で運転者の責任は問われませんが、これが人身事故となると大変なことになりますので、運転はくれぐれも安全運転をお願いします。

JRの事故にも見るように、スピードの出しすぎは大きな事故につながります。適正な車間距離で、わき見運転をしなければ、まず事故は起こりません。

安全成績 (H17年)

現場災害 H17.1.1-H17.4.30

重大災害 ----- 0

休業災害 ----- 0

不休災害 ----- 0

物損災害 ----- 0

その他 ----- 0

合計 ----- 0

交通災害 H17.1.1-H17.4.30

人身災害 ----- 0

物損災害 ----- 1

合計 ----- 1